

## 令和元年第2回教育課程編成委員会 会議議事録

1. 日時：2019年7月18日 17:00～18:00

2. 場所：日産愛媛自動車大学校 会議室

3. 参加者 学校外委員

出席者 有職者代表 愛媛大学 教授 工学博士 中原 さん  
 企業代表 日産自動車（株）日本アフターセールスリテンション部 北村 さん  
 企業代表 愛媛日産自動車（株）工場長 田村 さん  
 企業代表 日産プリンス愛媛販売（株）サービス部 樋口 さん

学校内委員

出席者 学校法人日産学園 部長 鳥井  
 日産愛媛自動車大学校 部長 高橋

欠席者 日産愛媛自動車大学校 校長 分部

委員以外の出席

出席者 日産愛媛自動車大学校 科長 西浦

4. 教育編成委員会内容

1) 開会あいさつ

2) 現在の学校がおかれている現状説明

・第1, 2回教育編成委員会経過報告

3) メンバー紹介（学校外委員4名、学校内委員2名）

4) 各委員の選出

・委員会の進行を学校の高橋、書記係に学校の西浦を任命。賛同を得て承認。

5) 第1回、第2回教育編成委員会経過報告及び意見と受け止め

—議事—

（鳥井委員）第一回は3月に日産5校で開催、第二回が5月に日産学園3校（京都・愛知・栃木）で開催。トピックスは三つ。一つは来年度からのカリキュラム変更である。今年度から販売会社の日産整備士資格受験の技術能力要件が変更になり、日産校としてカリキュラム変更が必要となった。日産整備士資格2, 3級について今年度の新技術要件に対応したカリキュラム編成を行う。2級については新たにエーミング調整が導入された。特定整備の法案が可決された背景と日産インテリジェント・モビリティの内容も一部組み込んだ内容になっている。来年より2年計画で導入する予定である。二つめは、昨年度から日産校の中期計画で、自主性、主体性の育成を取り組んでおり、今年度2年目になる。育成に関して現場教員は苦戦しており、学生単独では、はぐくまれない事が課題で上がっている。教員がどのように学生と関わっていくかを今年の課題として取り組んでいる。三つめは、日産校で近年、日本人学生が減少した分、留学生が増加しており、日産校で平均すると1年生の3割が留学生となっている。その

為、教育部は、日本語対応、風土の違い、学生対応について壁に当たっているのが現状である。学生確保で留学生が増えたが、今年は育成が大きな課題となっている。

□意見と受け止め（１）

①大学における留学生の指導方法について

②大学での寄付金募集について

〔①大学における留学生の指導方法について〕

（中原委員）大学では、日本人、留学生問わず１年生入学時、担当教員が各学年の学生５名程度、面倒を見る担任制をとっている。一番大きい活動として、留学生にはチュータといい、学生の補助員（大学院の学生が多い）アルバイトで半期で２０時間程度指導する。内容は本人によって違うが、留学生が必要な行動や学習に必要なことを指導している。また大学には、国際推進連携機構が組織として設置しており、そこを窓口として留学生を受け入れる体制がある。全学部では、国籍も多様になりミャンマーの学生も増えてきている。全学部の共通として日本語教育プログラムが柱になっている。例として通常入学の留学生では、英語の授業を留学生は日本語に置き換えている。他の授業も日本語や文化などの授業も置き換えて単位取得が可能な教科としている。地元就職促進が大きな目的として、愛媛県の１１大学が愛媛コンソシアム（事務局愛媛大学設置）という組織に加盟し、留学生育成プログラムの連携を取り、サポートしている。留学生のメリットは、就職に役立つビジネス日本語を授業とは別に教えてくれる。早い時期からインターンシップを斡旋してくれ、日本企業とのつながりを作ってくれる。奨学金の支援・斡旋もしている。留学生対応のマニュアルもあり、教員側のサポートも行なっている。ビザの更新、保証人の確保（連携機構が対応）もしてくれるのが大きい。あとは、学生のコミュニティがあり、特に中国の留学生は松山に大きなコミュニティがある。学生はその情報で困ったことを解決したりしている。学部の授業では特に留学生増加に対する対策はしておらず、学生がコミュニティを利用して学内事情や授業情報を先輩⇄後輩などで取得し対応している。コンプライアンスや日本文化は、日本事情を教科として２回×４コマ程度で授業をしている。大学では日本語が話せ授業について行ける前提で、入学の可否を決めている。入学時点で日本語が話せ、授業について行ける事を重要視している。お金とアルバイトでは、実際の経済的状況は温度差が大きい。大学では、１年次に申請により経済的に厳しい留学生は、授業料が免除になる補助を行なっている。２年生で成績が低位になると打ち切られるため、アルバイトを多くしてしまい学業とバランスが取れなくなる学生も増えている。

（田村委員）学生の日本語は、かなりしゃべれるのか？

（中原委員）来日して日本語学校に通い入学してくる学生が多いため、一般的な会話に問題はない。セレクトはしているが、入試合格で入ってきた留学生は大丈夫である。２年生では専門性が高くなるため、成績が悪くなる学生はいる。昨年からはビザの発給が厳しくなり、成績が悪いと発給が受けられず、強制送還される学生も増えてきている。

（鳥井委員）学生が授業料を滞納するケースはあるか？

(中原委員) 大学では、学則上、授業料を半年間払わないと強制退学になる。退学になる学生はほぼ居ないが、休学すると授業料は払わなくていいので、休学する学生もいる。

(鳥井委員) 日産校では滞納者が出てきている。大学では半年間は、入金されるまで待つのか？

(中原委員) 半年間は待つが、それを過ぎると退学処分になる。

(鳥井委員) 留学生受入れマニュアルは一般に公開されているものなのか？可能なら日産校でも参考にさせてもらいたい。

(中原委員) 公開されていると認識している。

(北村委員) 大学の入学試験、授業はすべて日本語で行っているのか？

(中原委員) 学部ではすべて日本語で行なっている。

(北村委員) 大学院では英語のみの学生に対応できていると聞いたが、中身は？

(中原委員) 基本的には日本人、英語しか話せない学生、両方に通用する授業を行なっている。日本語に英語を併記したり、講師により対応を工夫している。

(高橋委員) 整備士の学習では、国家試験に対応する授業での理解度に苦勞をしている。

## 〔②大学での寄付金募集について〕

(中原委員) 寄付金募集は正直厳しい。4年前にリニューアルし、愛媛大学基金を立ち上げ募っている。特定基金として、学部ごとにネーミングを変えて、基金を募っている。実際は、学生が就職している先が大きな候補になり、大学OB、共同研究企業にアプローチしている。悪影響が出ないように配慮はしている。実情はかなり厳しい。企業様は人手不足が深刻であり、学生が内定した企業様からは賛同して頂いている例もある。

## □意見と受け止め（２）

- ①販売会社でのメンタルを考慮した新人指導方法について
- ②販売会社向け授業参観やインターンシップ見学による意見交換について
- ③販社から見て学校が不足している指導について

### 〔①販売会社でのメンタルを考慮した新人指導方法について〕

（田村委員）特に取り組んではないが、出来るだけ怒らない。但し事故、危険行動には厳しく指導はする。会話を積極的にするように心がけている。悩みは極力聞くようにしている。

（樋口委員）新人教育は手薄になっている。現場では、学校卒の新人にこの程度はできるだろうという考えはある。やはり、若年の離職率を考えるとカリキュラムで新人教育してから現場に出さないといけない考えはある。メンタルに関しては、現在の学生はそういう教育を受けているので仕方が無い部分はある。配属はひとまとめにして、１年間は拠点に１人では出さないようにしている。

（田村委員）現場ＴＳは最低人数でまかなっているため、極力、情報を取得するアンテナは立てている。

（鳥井委員）日産校でも近年ハラスメント教育を重視している。そのため、強く指導できない部分があり、学生が打たれ弱くなっている背景は確かにある。また、社会的情勢（リーマンショック等）により採用凍結した年もあり、その影響で中堅社員が居ない空洞組織が形成されている販社もある。そういう現場では、OJTが機能せず、結果、新人が育たないと考えている。

（田村委員）自分の経験から現場でも教えることは出来るが、教える時間が無い。教えられていないのが現状。とにかく現場は人が足りないので、いかに短時間で教えて一人で仕事をさせられるか、という状態である。しかし、教育は時間が必要と判断し、今年は大学校の協力もあり、長期カリキュラム（３ヶ月）の新人教育が実現した。

（樋口委員）教え方が違うことに対応ができない。昔の学生と今の学生は違う。サービスは時間を掛ければできるが、営業は特に育て方がわからない。現在の学生は車との付き合い方が違う。

（田村委員）新人には、若いＴＳを付けるようにして考え方の心の同調、共感が図れるよう配慮している。

### 〔②販売会社向け授業参観やインターンシップ見学による意見交換について〕

（樋口委員）インターンシップの見学や学校授業参観は歓迎する。１級課程の学生は長期インターンのカリキュラムがあるが、２級課程の学生にはインターンで会社に慣れさせてあげたい。正直、学校の卒業生には最低限のことしか期待はしていないし、大学校の指導内容は良いと思っている。２級学生の販売会社や先輩とのコミュニケーションの時間を確保してほしい。それが将来の学生の為になると感じている。入社初期のマッチングも良くなるのではないか。

(田村委員) インターンは2級学生の期間を長くしてほしい考えは同じ。

〔③「販社」から見て学校が不足している指導について〕

(田村委員) 電気回路の理解不足は、回路は理解できるが実車では解らない現象がでていいる。授業では解るが実際の現場で対応できない現実がある。外部診断機(コンサルトⅢ)では、自己診断はできるが、故障診断の進め方が解らない。あと新人TSの意見では、実習車は壊れていないので、使用過程の車の故障がわからないため現場で苦労している。学校で実際に使っている車で教えてほしい声がある。社会人としてのマナー、考え方については、遅刻、無断欠勤に罪悪感がない学生が最近増えている。社会人の前に人としてどうかを考えてもらいたい部分がある。社会に出ることが、どうゆうことか、わかっていない。給料をもらう事が理解できているか?卒業前の学生には考えさせたほうが良い。

(高橋委員) 使用過程の車を学生が実習できる環境は学校では実現しがたいので、是非、グループ企業の取り組みとして考えさせて頂きたい。

〔その他意見〕

(樋口委員) 大学校が社会人学生の受入れをしていると聞いたが、内容を教えてほしい。

(高橋委員) 高等技術専門学校(職業訓練校)で教育を希望する学生が自動車を選択した場合、弊社に依頼があり外部委託生して授業に参加してもらっている。

(樋口委員) 卒業時はどちらの学校認定になるのか?

(高橋委員) 卒業認定は高等技術専門学校になる。

(中原委員) 留学生が14人と増えているが、授業は日本語で成立しているのか?

(高橋委員) 留学生はスマートホンのアプリの活用、教員の事前の難解日本語の解説を調べて対応している。学生はミャンマーが多く、スリランカ、バングラディッシュ等から留学している。

(中原委員) 大学もミャンマー学生が増えてきている。昨年から、協定校を作っている。

(田村委員) ミャンマーの留学生に限らず、コミュニティーが発達していて、情報交換が活発に行なわれている。

6) 閉会あいさつ

以上